



発行・カトリック水巻教会
 編集・広報委員会
 遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
 〒807-0021
 TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
 第282号

誰でも祝うキリストの誕生

先日旅に出たときに会った青年が言いました。「私は一度イスラエルに行って見たいです。岩のドームやキリストが十字架に掛けられた場所はどんな所ですかね」

この青年はキリスト教に全く関係ない人でしたので、私は「イスラエルに行くときは聖書を持っていったほうがいいよ」と言うと「大学時代に買って少しは読みました」と言っていました。

この話を聞いて感じたのは、キリストが生まれたことは、私たちキリスト教徒だけのものではなく、目に見えない形で地球上に大きな影響を与えていることです。

今回知り合った青年のように、学生時代から世界を旅していると、キリスト教が世界の人たちに大きな影響を及ぼしていると感じるようです。

12月が近づくとデパートや色んなところにもクリスマスツリーが飾られます。

この商売優先の伝統行事も、以前は金儲けに利用することが腹立たしいことがありました。

しかし、今回の青年の話を聞くと、キリストの誕生というクリスマスと言うより、キリスト教のことを関係ない人たちが宣教してくれている面もあるのではないかと思います。

国際ニュースでもクリスマス関連のニュースは大きなものです。

かつてベツレヘムのクリスマスミサには、パレスチナ解放機構のアラファト議長もイスラム教のベールを頭に被りながら参列していました。イスラム教ではモーセもキリストも偉大な預言者として扱われていることもあるのでしょうか。

イエスは復活した後、弟子たちの前に現れて言われました。

『それから、イエスは言われた。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。信じて洗礼を受けるものは救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける』(マルコ16章15~16)

私たちキリスト教徒は、キリストの誕生の喜びを伝える義務があります。今年は水巻教会の街頭募金活動がありませんが、私たちの周りの人に、自分で出来る範囲でキリストの福音を伝えましょう。

今モーセの十戒を読み直す・・・	2面
一日黙想会のお知らせ・・・	2面
子ども達のページ・・・	3面
委員会報告・・・	4面
典礼委員会議事録・聖書への案内	5面
「黙想の家で…」報告・・・	6面
教会学校・今月の聖人・・・	7面
おしらせ・小グループ紹介・・・	8面

「今、モーセの十戒を読み直す」No.7

さいたま教区長 谷 大二司教

第三戒

える必要があります。

「安息日を心に留め、これを聖別せよ。六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない」そして最後の方にはこういう風に書かれています。

労働というのは神の創造にかたどって労働があり安息があるということが先ず書かれています。

「六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである」

だから労働と安息というのは、我々人間の本来の姿である。つまり神の似姿としての本来の人間の基本的な権利なんだということを第三戒は述べている訳です。

これは日曜日の休みのことのように思えますけれど、注目しておかなければならないのは一番最後のところ、天地創造と関係を持って語られているということです。

労働を通して人間は神の創造に参加している。搾取と抑圧の構造の中でゆがめられていた労働自体を解放することを、この第三戒は語っている訳です。安息と労働は神から与えられた人間の基本的な権利だということです。

ファラオの下で過酷な強制労働、信教の自由の侵害、賃金不払い、労働搾取などが行われていた。安息日は労働の効率を上げるためのものではない訳です。労働は利潤を上げるためのものでもなければ、搾取されるためのものでもない。ここで労働と安息を一緒に考

今の派遣労働法もそうですけれども、労働者の権利がほとんど守られていない。しかし、それは人間の基本的な権利の一番大切なものの一つであるということを忘れてはならないと思います。(次号へ続く)

一日黙想会のお誘い

テーマ “イエスは、天の父を教えた、天の父の心を教えた”

心にのこる絵本の読み聞かせをして下さいます、お楽しみに。

指導司祭：田丸篤神父（カトリック下関長府教会主任、イエズス会）

日時：2011年1月29日（土）10:00～15:00

場所：カトリック水巻教会

費用：500円（弁当代）

プログラム

10:00～12:00 講話1

12:00～13:00 昼食

13:00～14:30 講話2

14:30～15:00 ミサ

世話係：ペルーの貧しい子どもを支えるレプトン会

公文書シリーズ 第12回 現代世界憲章(3)

この第2部では、より具体的な章立てが行われています。ここでは必ずしもキリスト教から出発したとは限らない社会・文化等、それ自体が自律的なものであり、それと同時に、神の秩序と融合できること、また、どうしたら神の意向に沿うものになるかを語っています。

第2部第2章「文化の発展」から、興味深い部分を抜粋します。

「哲学、歴史、数学、自然科学など種々の学問研究に励み、芸術に打ち込むことによって、人類家族を真・善・美のいっそうすぐれた理解と諸価値の総体の判断へ高めるため、大いに寄与することができる。こうして、神とともに万物を配置し、人の子らとともにあることを楽しみとするすばらしい英知によって、人間は素晴らしく照らされる。」

「二様の認識系列、すなわち、信仰の認識と理性の認識がある。また、教会は、芸術や学問がそれぞれの分野において独自の原理と法則を用いることを決して禁ずるものではない。これらを宣言する。したがって、この教会会議は、正しい自由を認め、文化、そして学問の正当な自律性を肯定する。」

第2部第3章は、生活に最も身近な経済・社会生活についてです。その冒頭の数個の文章を書きましょう。「経済・社会生活においても、人間の尊厳とその全き召命、全社会の善が尊敬され促進されなければならない。生産方式と商品および奉仕交流の進歩によって、経済は人類家族が増大した必要に、よりよく奉仕することができる適切な道具となった。」

すなわち、キリスト教信仰に比べれば卑しいとも思われる経済について、その価値を少しも否定することなく、それを直視する中に、それに携わる人間がどのように行動しなければならないか、と語っています。

所有ということについても、次の文章は、イエスの生き方、それを素直に模倣したアシジのフランシスコの生き方を考えるなら、議論があるかもしれませんが、ともかく、次のように書かれています。

「財産所有ならびに物件私有のその他の形態は、人間の自己表示に寄与し、さらに社会と経済において、自分の責任を果たす機会を提供する。」「財産または物件に対するある種の支配権は、個人と家庭の自律にまったく必要な領域を各自に提供するものであり、人間の自由の延長とも考えるべきである。それは義務と責任を果たすための刺激剤であるから、市民的自由の一条件でもある。」これを読めば、所有の意味は、ただの所有ということだけでなく、それによって社会における責任を負う、多大な責任を負ってしまう、ということが大切な点です。

何も持たないということは、神への道にストレートに向かうことに繋がります。財産を持つということ、それに煩わされることはイエスの教えにもある通りよく知られたことです。その財産をどうするかについて多大な責任を、社会において、そして神の前において負うということが、大切な観点です。

(公文書シリーズは今回で終わりです)

委員会等報告

2010年11月分

11月度小教区委員会

11月7日

1、行事報告

- ・10月10日(日)黙想の家で祈り語り合う集い、染野神父 参加13名
- ・10月22日(金)ホームレス炊き出し 参加9名
- ・10月31日(日)大人の日曜学校 罪と赦しの秘跡 参加、約60名
- ・11月3日(水)召命の集い、染野神父 参加23名(内、子ども約10名)
- ・11月7日(日)小教区・死者追悼式

2、前委員会の議事確認

- ・安心院巡礼旅行 参加費2千円、高校生以下1千円、弁当1千円(東筑軒)

3、議題

- ・11月28日(日)ミサ後、大掃除、馬小屋の飾り付け。加えて、外壁洗浄。(電飾付けの日程は、俵さんに依る。)
- ・12月予定の街頭募金について(議論によって、別方法に。後記※)
- ・12月24日 駐車場整理、ミサ後の懇親会(議論は行われなかった。)
- ・12月25日～1月1日 特に議論なく、下記「これからの予定」参照。
- ・安心院巡礼旅行(バス通常席45席+補助席7席分)を利用
- ・信徒協について 次回に延期する。
- (※)街頭募金についての議論
街頭募金について、効果が少ないなどの意見から、実施の是非について賛否両論の

意見が出された。

司祭から、次のような発言があった。「日本人から見て、カトリックのこのような活動は悪いイメージではないが、活動に協力する人が少ないことは常に悩ましい問題。確かに募金の金額は問題ではないが。」「悪い言葉だが、毎年しているから、では、回答にならない。2～3の小教区では廃止した。」「信徒が、各自の住居の近隣に持ち帰って、ポストに入れてはどうか。」

小教区委員会出席者に「教会外での触れ合い、宣教的意味がある。」「工夫の上、実施できる」「場所的に考えて(どこも無意味)。」「募金してくれる人が少なすぎる。」と、賛否両論があったが、これを踏まえ、小教区委員長が今年度は廃止すると結論した。さらに司祭の提案から、信徒協作成のチラシは活かし、裏面に水巻独自の手製の印刷をすること、各自が持ち帰ること、役員は当教会近隣に配ることを決定した。

4、駐車場基金について

意見が文書で出され、報告がなされた。

○駐車場の扱いについての意見

駐車場献金だったものを駐車場基金と命名したことに異議；購入できる金銭の用途が立っていない(ここで特に、信徒数が減少している。);等の意見が寄せられたことが報告された。

委員会における発言には「駐車場を使用する車所有者のみならず、全信徒の金銭支

払いについては、全信徒が納得している。」等があった。

なお、現駐車場の左端、3角形(台形)部分は、5月時信徒総会時点では、あいまいな使用状況だったが、借地料を払い始めたことが報告された。

5、これからの主な予定

- 12月24日、クリスマス・イヴ 19:30、
25日、日中のミサ 10:00、
- 1月1日、AM10:00(深夜ミサ/夜ミサはなし)
- 1月15日(土)14:00、結婚式

2010年度 第7回 典礼委員会議事録

開催日時：2010年11月10日(水)19:30 場所：信徒会館

出席者：竹森神父、松尾、俵、浜田、安永、柴田、三谷、矢田

《報告事項》

1. クリスマスミサパンフレット在庫
253部 フルート演奏今年は無し。
2. 11月23日(祭日)北九州地区信徒協典
礼部会 信徒研修会
場所：新田原教会聖堂 6名参加予定
講師：宮原司教 テーマ：「ともに喜び
をもって、ともに手をたずさえて」
3. 11月27日(土)教皇の意向により出生
前の命のため徹夜の祈りに唱和。

《審議事項》

1. 「黙想の家で祈り語りあう集い」
2010年度、3回実施した。次年度からは年2回位、春と秋に実施してはどうか。
典礼委員会で計画立案、小教区委員会に報告。
2. クリスマス前夜祭ミサ進行とメッセージについて
朗読は19:30開始 BGM無し。
朗読後に消灯して入堂開始(仔細は別紙)
メッセージ後半に文言追加(三谷氏)
3. 12月の聖歌予定表 了承
4. ミサ司会当番表の変更 12月19日(日)
俵 富士夫氏→浜口 学氏

4. 12月17日(金)共同回心式
水巻教会 10:30 19:30
5. 2011年1月15日(土)14時
吉田さん(中間地区)結婚式
司会：松尾定五氏(予定)
オルガン演奏：交渉
6. 1月16日(日) 典礼聖歌研修会
深堀 純氏

- 1月2日(日)浜口 学氏→俵 富士夫氏
5. その他
「心のセミナー」11月28日(日)14時
黙想の家ログハウス
テーマ：家族
講師：小宮豊氏(精神科医)
「心のセミナー」：年4回実施(福岡教
区報に日程案内掲載、次回は2月?)
参加費無料(自由献金)
次回予定
12月8日(第2水曜日)19時30分
2011年1月の典礼委員会は休みの予定

第3回「黙想の家で祈り語りあう集い」

報告：矢田 公美

第3回「黙想の家で祈り語りあう集い」は、10月10日(日)14:00~17:00 染野治雄神父様の指導で行われました。翌日が体育の日の連休で、外出予定や運動会などの影響もあり参加は13名、未信者の参加はありませんでした。

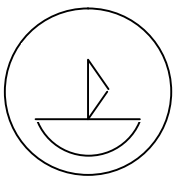
染野神父様は司祭叙階前に東京の本所教会にいらしたそうで、近くに相撲の高砂部屋があったそうです。ある日「一ノ矢」という力士がやってきたそうです。徳之島出身のカトリック、琉球大学の物理学科を卒業し、相撲道を極めようと24年間力士生活をして、三段目までを努め、引退直後だったそうです。大部屋暮らし、独身生活、慎ましい暮らしぶりなど修道生活と通じるものがあったとのことでした。

そこまでは前置きで、社会における教会の歴史を図にしながら振り返りました。初期の教会は、迫害の荒海であったローマ帝国にこぎ出す小舟でした。第2段階は中世、神聖ローマ帝国時代でコンスタンティン帝以後、政治と教会が一体となっていた時代。第3段階は、新世界発見・ルネッサンスの時代で第1バチカン公会議により教会と国家が分離してそれぞれ完全に別の社会となりました。第4段階、第2バチカン公会議後の「開かれた教会」は、社会と教会という二つの輪が交わる状況です。

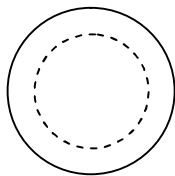
「教会」(神に呼び集められた民)はギリシャ語でエクレシア、ヘブライ語でカーハールというそうです。ユダヤ教から分かれたキリスト教会は、すべての人に開かれた新しい神の民の集まりです。

『悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。祝福を受け継ぐためにあなたがたは召されたのです。』(ペトロの手紙1 3・9)『キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、ご自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方をご自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現…』(エフェソ2・14)といった教会のあるべき姿が記されています。

お話の後の分かち合いテーマは、「教会は、社会の中で何が出来るか」でした。これは、わたしたち皆への神からの問いかけでもあります。



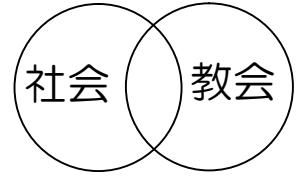
初期



第2期



第3期



第4期(現代)



教会学校のページ

9月26日

(1年生～6年生)

ルカによる福音(16章19～31)

- 1, みんなで読む
- 2, 分からないところを説明する
- 3, 大切なことは、助けを必要としている人、困っている人を見たら、無視しないで、喜んで手助けする。

10月10日

(1年生～6年生)

召命の集いの作品作り

テーマ「わたしをおつかいください」

神様のお役に立てることって、どんなことがあるか考えて、ノートに書く。
その中からカードに絵をかく。

今月の聖人 30日 聖アンデレ使徒

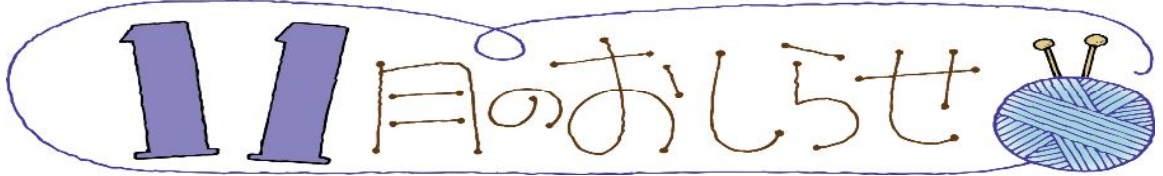
1世紀

アンデレは、ガリラヤのベツサイダの漁師であった。初め洗礼者ヨハネの弟子であった彼は、イエスが通りかかったとき、ヨハネが「見よ、神の子羊を」(ヨハネ 1.36)と言ったのを聞き、その晩はイエスと過ごした。翌日、兄弟シモン・ペトロ(聖ペトロ)をイエスのところに連れていった。その後、ペトロと網を打っていると、イエスに呼びかけられ、2人は従った(参照 マタイ 4.18-20、マルコ 1.16-18)。

イエスは、その後12人の弟子を選び、アンデレもその中に入った。聖書の中でアンデレが登場するのは、イエスが行なったパンを増やす奇跡の場面(ヨハネ 6.8-10)などで、地味ではあるが、思慮深い性格が現われている。

伝承によれば、イエスの昇天後ギリシャのパトモスで宣教し、そこでX型の十字架にかけられて殉教したといわれている。彼は漁師の保護者、またスコットランドの保護者とされている。特に東方教会では、特別な保護者として敬われている。





★諸聖人の日・死者の日★

◇諸聖人の日のミサ

日 時：11月1日(月) 午前9時より

◇死者の日のミサ

日 時：11月2日(火) 午前7時より

★安心院巡礼旅行★

日 時：11月23日(火) 勤労感謝の日

8:00 教会出発

17:00 教会到着

行き先：トラピスト修道院

安心院葡萄酒工房

参加費：一人2,000円

参加を希望される方は、聖堂の後ろにある
申し込み用紙に、名前を書かれてください。

★ 特別寄付★

吉田地区 鬼塚富由子さん

高須青葉地区 池尻紘子さん

お二方より教会にご寄付をいただきました。

★北九州地区信徒協典礼研修会★

日 時：11月23日(火) 10時より

場 所：新田原教会

宮原司教様が来られます。参加を希望される方は聖堂後の掲示板に記名されてください。

★九州地区外国人セミナー★

11月23日(火)に長崎教会管区で第五回九州地区外国人セミナーを開催します。参加希望者は遠賀地区の岩本さんまでお知らせください。貸し切りバスが出ます。

人-ひと

【帰天】安らかに！

◇9月25日

鬼塚 重忠さん (吉田地区)

小グループ紹介シリーズ

レプトン会

南米ペルー・リマ市にある貧民街の貧しい子どもたちを支えています。

皆様のご協力により、毎月の募金と特別献金またワイン・ケーキの販売や平和の集いでの物品販売等で、毎年40万円をペルーへ送金し続けて13年目になります。ペルーの現状報告会や黙想会も続けています、現在会員は47名です。一口100円からの募金に協力して下さる方をお待ちしています。

イエスのカリタス修道女会ペルー共同体一同からのメッセージ『新しい福音宣教の形でしょうか・・・水巻教会の皆様が送ってくださる善意と愛を私たちがこちらの子どもたちに伝えていくのですから。』

レプトン会世話人 岩本ナセ (遠賀地区)